

郊外住宅団地の再生を目指して

高度経済成長期に大都市周辺で開発された郊外住宅団地の多くは、まち開きから40年以上が経過し、住民の高齢化や生活利便施設の減少、公共交通の撤退など、多くの課題に直面している。

一方で、公園や道路等のインフラが整っていることから、コンパクトプラスネットワークの集約型都市構造において、郊外部の拠点としての役割が期待される。また、テレワークの普及や働き方改革に伴い、郊外住宅での暮らしに注目が集まっている。

このような郊外住宅団地の現状を把握するとともに、次世代に住み継ぐために、団地居住者のQOLが向上するような再生方法について考える。



講師 石井 儀光 氏

国土交通省国土技術政策総合研究所都市研究部 都市開発研究室長
筑波大学連携大学院システム情報工学研究群准教授(2015～)

鹿児島市出身、筑波大学第三学群社会工学類卒業、
筑波大学大学院社会工学研究科修了・博士(都市・地域計画)
筑波大学経営政策科学研究科、国土交通省国土技術政策総合研究所、
国立研究開発法人建築研究所を経て、2018年より現職

日時: 2021年7月2日(金)15:00-16:30

場所: オンライン開催 (Zoom)

参加費: 無料

参加登録: <https://bit.ly/3u3pA9o>



※聴講申込用googleフォーム

※事前に上記googleフォームにて参加登録下さった方に、聴講用URLをお知らせ致します

URL: <http://www.intcul.tohoku.ac.jp/g2sd/jp/workshop/>

使用言語: 日本語

主催: 東北大学大学院 国際文化研究科

後援: MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
MS&AD インターリスク総研株式会社

(お問合せ) 国際文化研究科グローバルガバナンスと持続可能な開発プログラム(G2SD)担当: ienv.gsics@gmail.com